本記事はアートボックス社「アーマーモデリング」2020年1月号よりご提供いたしま

サビ表現専用の色味もラインナップ

ダークラスト、ミディアムラストで全体を塗装。水を多めに加えたライトラストを垂れるぐらい吹いてからそのまま乾燥。薄め過ぎた塗料の弾きを利用してランダムな効果を狙っても面白い。

簡単洗浄でスムーズに作業

使い終わった塗料皿や筆の汚れは水道水で簡単に落とせるのも嬉しい。エアブラシの塗料を違う色に変える時は、水を張ったバケツを用意してその中で洗浄できるのは便利だ。乾燥した塗料は専用うすめ液や他社のアクリル溶剤で落とすことができる。

低めの気圧で行なうエアブラシ塗装。

0.2㎜口径のエアブラシで細吹き塗装。通常塗装時よりも水を多めに希釈。薄め過ぎると流れやすくなるので注意。エア圧を下げて細吹きに対応しよう。

希釈度の調整で用途を変えられる。

明暗をあらかじめ付けた後に基本色を薄く塗装して陰影を再現するブラック＆ホワイト塗装を試してみた。水を多めに加えると塗料が透過して下地を活かした色味がついた。

戦車塗装の重要ポイント

AFVモデルに欠かせない「履帯色」がラインナップされているのは嬉しい。暖色系のアースグレーは履帯の色にピッタリだ。

重ね塗りでウェザリングにも使用

水を多めに希釈したパフを置くように塗って埃表現する。奥まった箇所に溜まるように載せて乾かせば埃っぽさが手軽に再現できる。希釈しない塗料でスパッタリングしても良い効果が得られそうだ。

こまかい粒子がドライブラシで活きる

シルバー系塗料で接地面にドライブラシ。銀塗料に限らず他の色でもエッジにドライブラシが決まりやすいのがこの塗料の特徴だ。エンドコネクター部分にはダークラストで薄らサビ色も追加した。

安心して使える水性プライマー

仕上がりがグレーになる水性プライマー。下地に対する食い付きも良好で隠蔽力も高い。

塗膜剥がし技法にも対応

ブラウンを混色してエアブラシ塗装。塗料剥がし技法を試すためにクレオスのシリコンバリアを塗布。チッピングに備える。

隠蔽力を利用した重ね塗り

下地が暗い色でも吹き重ねることで綺麗にオリーブドラブが発色する。塗装面が半ツヤに仕上がるのでこのままデカールを貼ることも可能。

筆塗りでも変わらない強い発色

筆塗りで部分塗装。下地を隠蔽させたい場合は容器から出し、少し水で薄めた塗料で塗る。乾燥すると平滑な塗膜になる。

塗膜剥がし技法にも対応

最近よく行われる塗膜はがしチッピングに挑戦。シリコンバリアの効果で塗膜を弱くして上掛けした塗料を剥がす。ヘスプレーでも同じ効果が得られた。

キャッチキャッチキャッチ

薄めたパフで埃汚れを追加して仕上がる。水を多めに加えるとツヤが消えるようだ。この塗料の長所は塗装面が半ツヤに仕上がること。スミ入れなどのウェザリングやデカールの工程にすぐに移ることができるのは嬉しい。ラッカー系のフラットクリアーでも問題がなかった。

VICカラー　各色税別260円
VICカラー　うすめ液 250ml 12月発売予定　税別650円
VICカラー　水性プライマー（灰色・白）各税別500円
12月発売予定　㈱ビーバーコーポレーション https://beavercorp.jp/

気になる新生塗料「VIC HOBBY」の性能に迫る!

製作・文／平井 真

基本色はラッカー系塗料が当たり前というのはもう昔の話。ウェザリングなどのキツイ工程が繰り返されるAFVモデルにも耐えられる高性能の水性アクリル塗料も揃ってきているのです。そこに新たに登場した「VIC HOBBY」カラーの性能をAFVモデラー目線で紹介！

使ってわかる初めてわかる「VIC HOBBY」カラーの特徴とは!?

強めの隠蔽力で発色もバッチリ

黒と白のラッカー系サーフェイサーの上からフィールドグレーを下半分にエアブラシ塗装。一回では隠蔽し3～4回重ねると綺麗に発色した。

乾燥後の塗膜も強固で安心。

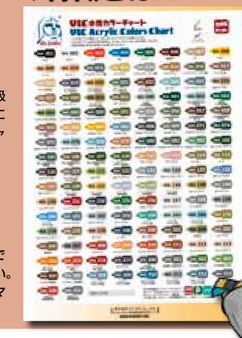
十分に塗料を乾燥させたあと、養生テープを貼ってから剥がして塗膜強度をテスト。養生テープの粘着力に耐えられる強度が確認された。

使いやすい容器と塗料の濃度

塗料の濃度は濃すぎず薄すぎず、扱いやすい。蓋を閉めた状態で上下に振って攪拌できる。ワンタッチキャップのボトルも便利だ。

水道水での希釈でも落ちない性能。

希釈は専用うすめ液または水道水でもOK。塗料も一滴ずつ注ぎやすい。画像は水道水で薄めた状態だがダマにもならず綺麗に溶ける。



フィギュア用塗料も調色要らずでグラデーションに!

フィギュアの肌の色数は、重ね塗りをしてグラデーションを表現するアクリル塗料にとってとても重要。ビックホビーカラーでは影から基本色、ハイライトまで5色の肌用の塗料をラインナップしている。

あらゆる塗装方に対応した新生水性アクリル塗料

日本での販売が開始された「VIC HOBBY」の水性アクリル塗料。その特徴を知るべく色々とテストを行ってみた。まずはエアブラシ塗装。塗料と水道水1：1の割合で希釈して使用。塗装中にエアブラシが詰まることも無く、細吹きの時に少し出にくくなることあったが軽くウガイをしたらすぐに解消した。この塗料は一見するとドロっとしているように見えるが粒子がこまかいので詰まりにくいようだ。コンプレッサーの空気圧は0.08MPaでテスト。一般的な模型用コンプレッサーでとくに問題ない。

筆塗りは塗料のノビがよいのでとても塗りやすい。塗料の粒子のキメがこまかいのでドライブラシもしやすい。しっかり隠蔽させたい場合は水で薄め過ぎないで少し多めに載せるぐらいで調度よい。乾燥すると平滑になる。

エアブラシと筆塗り共に共通して言えることは、下地の色ををしっかり隠蔽させたい場合、あまり薄め過ぎないほうがより均一に仕上がる、さらに吹き重ねる回数も減る。全体的な印象としては、隠蔽力も強くとても使いやすい。国内での水性アクリル塗料の使用率をさらに上げることに貢献するのではないだろうか。■

平井 真
Makoto HIRAI
愛知県在住。本誌の特集では欠かせない存在の一人となっている敏腕AFVモデラー。3色迷彩には強いこだわりを持ち、おもに大戦ドイツ車両を得意とする。